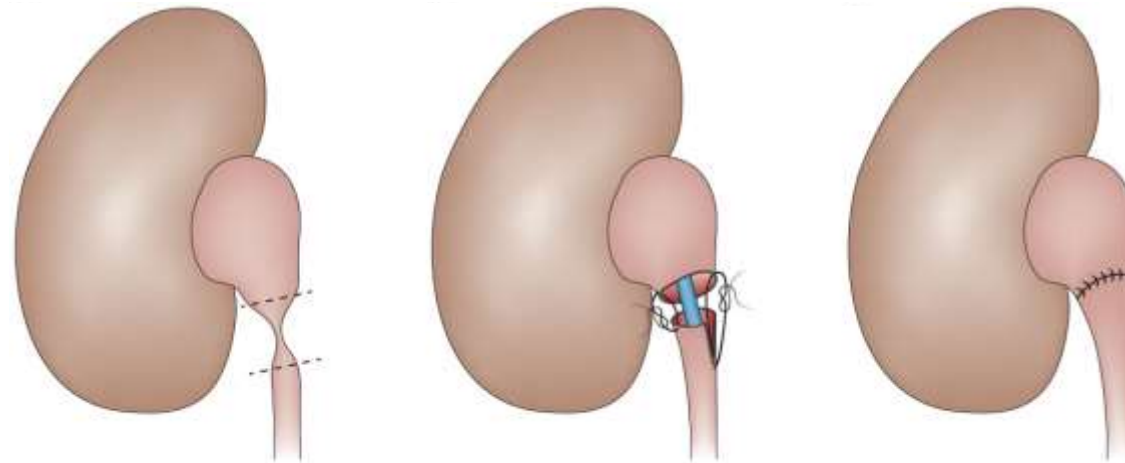


腎盂形成術

【聖路加国際病院ロボット手術センター】

< 腎盂尿管移行部狭窄の病態 >

腎臓と尿管の境目（腎盂尿管移行部）のところに狭窄部位があり、尿が停滞し腎臓の中に尿がたまっています。この状態を水腎症といいます。長期間水腎症が続くと、疼痛、尿路感染症、腎機能の低下の危険性が高まります。多くの場合、手術（下図）が必要となります。



出典: Khan, F. et al. Management of ureteropelvic junction obstruction in adults. Nat. Rev. Urol. 11, 629-638 (2014)

< 腎盂尿管移行部狭窄の治療選択肢 >

01 手術をしない治療

- 尿管ステント留置
3-4か月毎に定期交換する必要があります。
異物が留置されることで、結石や感染症の原因となることがあります。

02 手術（腎盂形成術）

- 開腹手術
- 腹腔鏡手術
- ロボット支援手術
腎盂尿管移行部の狭窄を解除し、
腎機能保全や疼痛の改善、感染症のリスクを減らすことが期待されます。

< 腎盂形成術の手術方法 >

01. 開腹手術

従来の治療法です

02. 腹腔鏡手術

低侵襲※で傷が小さく体への負担が少ないですが、特に縫合において技術的に難しい手術です

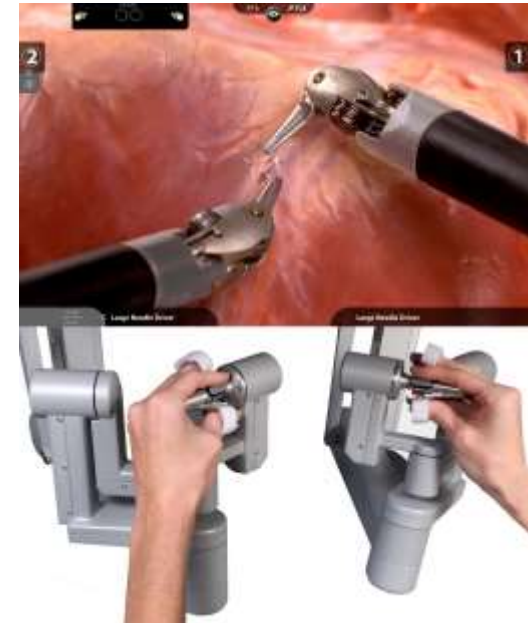
03. ロボット支援手術

腹腔鏡と同じく低侵襲で傷も小さいですが、腹腔鏡で技術的に難しい手技（縫合や腎盂周囲の剥離など）の制約が改善されています

※低侵襲…手術・検査に伴う痛み・出血などをできるだけ少なくすること

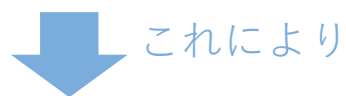
< ロボット支援手術とは >

腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式です。
高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、
より安全で体への負担が少ない手術を行えます。



<ロボット支援手術のメリット>

ロボット支援手術は、
より正確で、より安全な手術が可能となります。



メリット 開腹手術に比べ、傷が
01 小さく、痛みや出血が
少ない手術です

メリット 従来の腹腔鏡手術より
02 も、容易に手術が可能
です

メリット 合併症のリスクを低減
03 できます

※腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援手術は、腎盂尿管周囲の剥離や新たに腎盂と尿管をつなぐ操作でも繊細で正確な電気操作が可能であり、手術時間短縮や治療成績の改善が期待されます

< ロボット支援腎盂形成術の入院経過例 >

入院期間：約7日間

1日目	手術前日	入院	治療についてご質問があればお答えいたします
2日目	手術当日	手術	当日は朝から絶飲食です。
3日目	手術翌日		血液検査があります。 歩行・食事を再開します。
4日目			歩行に問題がなければ尿道の管を抜去します。
5-7日目	術後3-5日	退院	尿管内にステントという細い管が留置された状態で退院です。このステントは6-8週間後に泌尿器科外来で抜去します。